

地方創生に向けた実践活動及び普及啓発活動 ～日野町魅力化プロジェクトの取組を中心に～ 結果の概要

1. 目的

現在、わが国において少子高齢化、人口減少が進む中で、特に地方ではその影響が大きく、過疎や産業の衰退等、住民の暮らしに直結する課題が山積している。一方で、各地域には魅力ある資源（自然、文化・伝統、工芸、農水産物、歴史等）が存在するのも事実である。多様性豊かな地域を残していくためには、その地域の魅力を発掘し、磨き、それを伸ばしていくことが必要であり、それが地域の豊かさや幸福へとつながる。さらに、そのような地域の魅力の効果的な発信は、その地域に目を向けてもらい、また交流やインバウンド、シティプロモーションにもつなげられる。

地方創生に向けては、国をはじめ県や市町村、地域住民、各種団体、民間事業者、大学等、様々なステークホルダーが実践的に取り組んでいるところである。シンクタンクも同様に、地方創生に資する活動を行っていくことが、社会的にも求められている。

本稿では、上記のような認識の下、過去3年間にわたり鳥取県日野町において行ってきた実践活動の概要及び総括、またそれを題材に東京大手町において開催した地方創生を考えるワークショップの概要について紹介する。

2. 結果概要

(1) 概要

日本各地で実践されている地方創生関連の多様な取組の中でも、一つ的手段として「地域外」や「若者」の視点の活用が注目されている。地域づくりの主体は、そこで暮らす地域住民であるが、地域住民と若者やヨソ者の力を融合しながら、地域住民が自ら考え、行動していくことが、持続可能な地域づくりには不可欠と考える。

そこで、シンクタンクならではの地方創生に関する活動として、過疎化が進む鳥取県日野町をフィールドに実践してきた「日野町魅力化プロジェクト」の最新年度の成果等も踏まえながら、過去3年間の実践活動の総括を行った。

さらに、日野町魅力化プロジェクトを題材に、様々

な世代・立場の参加者が、それぞれの立場から地方創生を考えるためのワークショップを東京大手町において開催した。これは、日野町魅力化プロジェクトの参加学生と日野町との関係継続、参加学生のさらなる成長の機会とすること、また首都圏在住または首都圏勤務の社会人等からの客観的な評価を受けることを目的に報告会を兼ねて実施したものである。

(2) 地方創生に向けた実践活動

①日野町魅力化プロジェクト

鳥取県日野郡日野町は、鳥取県西部の山間の町で、米子から南に車で45分、岡山県との県境に位置する。人口は約3,000人（毎年100人弱が減少）、高齢化率は約50%で、急速に少子高齢化が進んでいる、いわゆる過疎の町である。

主な産業は農業であるが、中山間地ということもあり、大規模な農地は少ない。観光資源としては、「金持（かもち）神社」と「オシドリ」などが挙げられる。金持神社は年間20万人以上が参拝に訪れるといわれているが、周囲には飲食店や宿泊施設などの店舗も少なく、地域を潤す観光という面では、まだまだ課題が残されている。

日野町魅力化プロジェクトは、2016年からスタートした地域おこしの実践活動である。地域おこしに関心のある都市部の大学生が、日野町住民宅にホームステイし、日野町での生活に触れながら、最終的に地域の魅力化案、事業化案を提案するプログラムである。このイベントは、囲碁棋士であった故安田泰敏九段が発案したもので、それを受けて弊所黒田秀雄特任研究員（当時東京富士大学教授）がコーディネーターとなり、関係各者からサポートを受けながら実施してきたものである（弊所は2017年から参画）。

②日野町魅力化プロジェクト3年間の総括

本プロジェクトには、過去3年間にわたって、延べ32人の大学生・大学院生が参加した。

過去3年間の総括として、参加学生が指摘した日野町の課題・問題点、日野町の魅力・ポテンシャル、そして提案した魅力化・事業化アイデアは、以下のよう整理することができる。

➤ 日野町の課題・問題点

- ・インフラ整備（ネット環境の悪さ）
- ・農業振興（後継者・人手不足、廃棄野菜等）
- ・少子化（子どもの少なさ、活気のなさ）
- ・遊休資源の未活用（古民家、耕作放棄地等）
- ・プロモーション（町の認知不足、観光資源のブランディング不足）

➤ 日野町の魅力・ポテンシャル

- ・豊かな農作物、きれいな水
- ・熟練農家のサポート体制
- ・人間関係、近所づきあい
- ・住環境の良さ、生活費の安さ
- ・「ふるさと住民票」
- ・金持神社、金持テラス
- ・ラフティング



➤ 魅力化案・事業化案

- ・農産物直販サイトの立上げ **実現化**
- ・移住のためのコンテンツ配信
- ・休耕地を活用した「ひまわり園」 **実現化**
- ・カスタマイズ週末農家
- ・SNSでの移住コンテンツ配信
- ・空き家の宿泊施設化
- ・サイクリングプラン **実現化**
- ・「おしどり婚姻届」の作成 **実現化**
- ・クリエイター向け移住施策の展開 **等**



魅力化案や事業化案の目指すところは、お金をかけずに、今ある資源・潜在的な資源で、できることから実践につなげる「スモールスタート」を主眼に置いている。

参加学生が提案した上記の魅力化案・事業化案のうち、町内の光通信網の整備（インターネット環境の整備）を含め、5つのプランが実現化した。町民宅へのホームステイやフィールドワークを通じた、町の魅力、生活課題、地域課題の発見と、若者の忌憚のないプレゼンが施策の実現に結びついたといえる。

また本プロジェクトの活動は、地元紙や地元メディア、日野町ケーブルテレビにおいて好意的に取り上げられたほか、鳥取県のホームページ等で紹介され、副次的な効果（町のPR効果）も得られた。

さらには、参加学生の「人材育成」という面で、大きな効果があるものとする。本プロジェクトにおいては、都市部の大学生、地方学生、留学生とが寝食をともにし、多様な価値観や考え方、田舎の生活スタイル、都会では得にくい体験等を経験する機会となっている。そういった経験を通じて、価値観の醸成、

コミュニケーション・スキル、チームワーク、課題解決力、プレゼンテーション能力等、意識面・スキル面において、学生の成長が見られたことは大きな成果であった。

(3) 地方創生に向けた普及啓発活動

①「大学生が中心となった地方創生」報告会

本イベントは、日野町魅力化プロジェクトの参加学生と日野町の関係継続につなげるとともに、地方創生等に関心のある社会人など一般の方々に幅広く、日野町や本プロジェクトについて周知すること、そして参加者から本プロジェクトに対して第三者的な評価をいただくことを目的に開催した（開催日：2018年3月12日／2019年2月20日、開催場所：3×3 Lab Future（東京大手町 JXビル1F））。



報告会では、本プロジェクト参加学生が登壇し、自らの言葉で日野町魅力化プロジェクトの振り返りをプレゼンし、その後には参加者全員で“地方創生とは何か?”、“日野町の地域活性化とは?”、“農業による地域活性化策とは?”、“関係人口とは?”といったテーマでワークショップを行った。

②日野町魅力化プロジェクトに対する評価

～イベント参加者からの意見

イベント参加者による第三者的な評価という点で、実施後の「参加者アンケート」の内容をいくつか紹介したい。

➤ 大学生が地方創生プロジェクトにチャレンジすることについて

- ・大学生の行動力、真剣にプロジェクトに取り組む姿勢が素敵で、若い力の可能性を感じた。
- ・大学生ならではの視点で地方を捉える点、課題認識などが新鮮だった。
- ・大学生が地方の問題に挑戦すること、日野町住民では気づかない第三者的な視点で自由に発想できることはとても素晴らしい。
- ・実際に赴いて見聞きし、体験したことを自分の言葉で表現することは、貴重な人材育成の機会になる。

➤ 日野町魅力化プロジェクトについて

- ・都会の大学生が、ふるさとの一つに日野町を挙げている時点で、意味のあるプロジェクトだと思った。
- ・日野町に対して魅力化アイデアを提案することは、実現可否に関わらず意味がある。活動を継続して

いくことで町が変わっていくことに期待したい。

➤ “地方創生”や“地域の魅力化”に関して改めて感じたこと

- ・自分事として捉えることが大切だと思った。短時間でも多くのアイデアが出るので、きっと地方創生は叶うはず。
- ・地域を知ることと、その地域のために行動すること、そして継続的に実践していくことが大切。
- ・「関係人口」という言葉を耳にする機会が増えたが、その地域との関係を持つきっかけづくりが大事。

参加学生の発表を聞いた参加者からは、日野町魅力化プロジェクトが、都会と地方をつなぐ貴重な機会であること、そして人材育成に貢献するプロジェクトであるといった評価が得られた。

3. 今後の展望

「日野町魅力化プロジェクト」のような実践活動は、これからのわが国を担っていく若者の人材育成という点で貢献できることがわかった。また、東京大手町における「大学生が中心となった地方創生」報告会開催による普及啓発活動では、地方創生のために何らかの形で貢献したいと考える方々にとって、都心にいながら地方のことを考えるよい機会となったほか、日野町のPRにもつながったものとする。シンクタンクにとっても、このような実践活動を通じて、地方創生に寄与していくことができるのではないかと考える。

今後は、“わがまち”魅力化プロジェクトを核として、日野町に限らずフィールドをさらに拡大・展開し、様々な関係者と連携しながら、地方創生に資する人材育成機能を強化するとともに、若者ならではの気づきや発想、魅力化プランを、より多くの地域に拡散していきたい。

*本報告は、『日野町魅力化プロジェクト 2018 実施報告書』（東京富士大学「企業ビジネス研究同好会」・一般財団法人日本総合研究所）、『大学生が中心となった地方創生—日野町魅力化プロジェクト報告会』（一般財団法人日本総合研究所）、『2018年度 わがまち魅力化プロジェクト～持続可能な地域社会の創生事業～事業報告書』（一般財団法人社会開発研究センター・一般財団法人日本総合研究所）の報告の一部として掲載したものである。

＜参考文献等＞

- 一般財団法人社会開発研究センター・一般財団法人日本総合研究所（2018）「わがまち魅力化プロジェクト～持続可能な地域社会の創生事業～事業報告書」
- 一般財団法人社会開発研究センター・一般財団法人日本総合研究所（2019）「2018年度 わがまち魅力化プロジェクト～持続可能な地域社会の創生事業～事業報告書」
- 東京富士大学「企業ビジネス研究同好会」（2016）『「日野町魅力化プロジェクト」参加報告書』
- 東京富士大学「企業ビジネス研究同好会」（2017）『2017年「日野町魅力化プロジェクト」参加報告書』
- 東京富士大学「企業ビジネス研究同好会」・一般財団法人日本総合研究所（2018）『日野町魅力化プロジェクト 2018 実施報告書』
- 一般財団法人日本総合研究所（2018）『「大学生が中心となった地方創生」報告会（ダイジェスト版）』
- 一般財団法人日本総合研究所（2019）『「大学生が中心となった地方創生」報告会（ダイジェスト版）』